

## 歴史(緊張緩和と日本外交)

植民地支配から独立した国々の多くは、1955年の①\_\_\_\_\_会議に見られるように、平和共存をうたえた。1962年、②\_\_\_\_\_危機が、米ソ間の核戦争が起きる寸前で收拾されると、緊張緩和が本格化し、さらにアメリカが中国との関係を改善し、1973年に③\_\_\_\_\_から撤退すると、緊張緩和はアジアにも広がった。その一方で、西ヨーロッパ諸国は、経済統合を進め、1967年に④\_\_\_\_\_を設立した。日本では、1956年にソ連と⑤\_\_\_\_\_が調印され、同年、日本はソ連の支持も受けて⑥\_\_\_\_\_に加盟し、国際社会に復帰した。また、韓国とは、1965年に、⑦\_\_\_\_\_を結び、中国とは、1972年に⑧\_\_\_\_\_によって国交を正常化し、1978年には⑨\_\_\_\_\_を結んだ。また、1972年5月に⑩\_\_\_\_\_が日本に復帰し、その過程で、核兵器を「⑪\_\_\_\_\_、⑫\_\_\_\_\_、⑬\_\_\_\_\_」という⑭\_\_\_\_\_が国の方針になった。